

西日本新聞創刊130周年

おりがとうの森

# おりがとうの森

Vol.2 森のめぐみ

約90%が人工林

この森をどうするか？

毎年夏、山から湧き出る清流が、水俣市久木野にある久木野地区は涼しい。山から湧き出る清流が、水俣市久木野にある久木野地区は涼しい。山から湧き出る清流が、水俣市久木野にある久木野地区は涼しい。

水俣市久木野ふるさとセンター「資料館」館長 沢崎 亨さん



全国公募で水俣市久木野の景観を題材に、市民が写真や絵画で交流。資料館は、市民が写真や絵画で交流。資料館は、市民が写真や絵画で交流。

## お知らせ！ まもなく、「おりがとうの森学校」開校

自然と触れ合い、大切さを学ぶ「おりがとうの森学校」を開きます。水俣市久木野地区の自然を、子どもたちが学びます。

## 「おりがとうの森基金」

九州の自然を守るため、西日本新聞社が開設した「おりがとうの森基金」。基金は、水俣市久木野地区の自然を、子どもたちが学びます。

たぐいまる基金額 144,565円

これまでに募金いただいた方々（敬称略） 佐々木フ子（福岡県南州市）、手島尚子（福岡県宇美町）...

## 守りたたい！ 九州希少生物フェア②



【ゴイソウハマゼミ】 産出地 シシモチ山内村。熊本県の山内地区で産出。貴重な生物です。

この森をどうするか？ 山から湧き出る清流が、水俣市久木野にある久木野地区は涼しい。山から湧き出る清流が、水俣市久木野にある久木野地区は涼しい。

ボランティアと一緒に森づくりの大変な体験 94年、「おりがとうの森」の館長に公募で選ばれた、水俣市久木野地区のボランティアが、森づくりの体験をしました。



左側が間伐されて理想的な状態の人工林。水源の森として十分に機能を果たしています

悪風を争うにはお金も力も必要 山内村の自然を守るため、西日本新聞社が開設した「おりがとうの森基金」。



南側の崖を削って木の成長を助けます

上は順風を吹かす。山内村の自然を守るため、西日本新聞社が開設した「おりがとうの森基金」。

大地面に落ちた木。山内村の自然を守るため、西日本新聞社が開設した「おりがとうの森基金」。

清らかな水も、おいしい空気も 森のめぐみは「ただ」じやない

水俣市久木野ふるさとセンター「資料館」 水俣市久木野に建てた村おこしの施設。高層ビルの中にある。市民が写真や絵画で交流。資料館は、市民が写真や絵画で交流。